

出資団体台帳

出資団体名	33.一般財団法人荘川観光振興公社
-------	--------------------------

所管課	観光課
-----	-----

1. 出資団体概要 (令和7年4月1日現在)

①法人分類	公益・一般財団法人 ()		
②業務分類	観光・レジャー ()		
③主な活動範囲	市内規模 ()		
④所在地	高山市荘川町猿丸82-1		
⑤設立年月日	平成元年4月3日		
⑥従業員数	役員	(常勤)	(非常勤) 11 人
	正社員	(常勤)	(内出向)
⑦役員等	役職名	氏名	市所属・職位
	代表者		
	役員		
⑧資本金 20,000 千円			
	出資者	資産種別	出資額 出資割合
	高山市	出えん金	20,000千円 100.0%
	他自治体		0.0%
	その他		0.0%
	【備考】		

⑨設立目的			
	定款に掲げる主な事業内容	現在の実施の有無	主な受益者
	観光宣伝及び観光客誘致に関する事業	実施 理由 ()	観光客
	観光資源の開発調査、研究及び保護に関する事業	実施 理由 ()	観光客
	観光に関する調査並びに情報収集及び提供に関する事業	実施 理由 ()	観光客
	観光に関する刊行物の発刊に関する事業	実施 理由 ()	観光客
	高山市有観光施設の受託管理及び運営に関する事業	実施 理由 ()	観光客
	特産物の発掘、製造直売に関する事業	実施 理由 ()	観光客
		理由 ()	
		理由 ()	
		理由 ()	
		理由 ()	
⑩地域の関わり			
荘川地域における地域振興や観光振興の観点から事業展開しており、荘川地域住民の役員就任により運営されている。			
⑪市民の関わり			
桜香の湯は地域住民のほか多くの市民に利用されている。高齢者等車の運転が出来ない住民に対しては公社による送迎を実施するなど、住民の憩いの場となっている。桜香の湯は高齢者の入浴料の一部を市が助成する指定保養施設として、高齢者の健康推進や心身のリフレッシュに貢献している。地域住民の就職先の一つである。荘川の里は高山市民のみ入場無料としている。			
⑫経緯			
出資時の状況	H元.4 財団法人荘川村観光振興公社を設立し、桜香の湯、荘川の里、そばの里荘川の管理運営や、荘川地域の活性化、観光事業の振興を目的とし、旧荘川村が出えん(500万円) H17.7 名称を「財団法人荘川観光振興公社」に変更 H25.4 一般財団法人へ移行		
その後の経緯	H2 旧荘川村が500万円出えん H3 旧荘川村が800万円出えん H4 旧荘川村が200万円出えん H17.2.1 市町村合併により高山市に20,000千円の出資を継承		

2. 事業概要

①事業	②市事業	③種別	④業務内容、状況、課題等 (施設がある場合は、施設ごとの状況、公共施設等総合管理計画における方針を記入)	⑤事業収支	⑥定性的評価		
					市による 関与の必要性	民間による 代替性	事業の 採算性
高山市指定管理業務	○	指定管理事業	桜香の湯 譲渡 (譲渡がない場合はあり方を検討) 人流は戻りつつあるものの経営は厳しい状況が続いている。 R6指定管理料 33,358千円	赤字	有	有	無
高山市指定管理業務	○	指定管理事業	そばの里荘川 レストランは譲渡 (譲渡先が無い場合は廃止) 人流は戻りつつあるものの経営は厳しい状況が続いている。 R6指定管理料 12,674千円	黒字	有	有	無
高山市指定管理業務	○	指定管理事業	荘川の里 継続 人流は戻りつつあるものの経営は厳しい状況が続いている。 R6指定管理料 8,260千円	黒字	有	無	無
飛騨ふるさと村役場事業	—	受託事業	全トヨタ労働組合連合会より補助金を受けて運営している。	黒字	有	無	有

3. 財務状況

(1) 貸借対照表		(令和3年3月31日現在)		(令和4年3月31日現在)		(令和5年3月31日現在)		(令和6年3月31日現在)		(令和7年3月31日現在)		
項目	A	令和2年度	第 32 期	令和3年度	第 33 期	令和4年度	第 34 期	令和5年度	第 35 期	令和6年度	第 36 期	
		決算額	前年比増減	決算額	前年比増減	決算額	前年比増減	決算額	前年比増減	決算額	前年比増減	
資産の部合計	A	35,454 千円	5.6 %	42,012 千円	18.5 %	43,196 千円	2.8 %	40,254 千円	▲6.8 %	42,151 千円	4.7 %	
流動資産	B	12,241 千円	18.0 %	17,886 千円	46.1 %	19,179 千円	7.2 %	17,083 千円	▲10.9 %	18,989 千円	11.2 %	
固定資産	C	23,213 千円	0.0 %	24,126 千円	3.9 %	24,017 千円	▲0.5 %	23,171 千円	▲3.5 %	23,162 千円	0.0 %	
繰延資産		0 千円		0 千円		0 千円		0 千円		0 千円		
負債の部合計		25,209 千円	1.6 %	31,156 千円	23.6 %	30,183 千円	▲3.1 %	27,883 千円	▲7.6 %	23,331 千円	▲16.3 %	
流動負債	D	24,419 千円	▲0.5 %	30,893 千円	26.5 %	29,549 千円	▲4.4 %	27,672 千円	▲6.4 %	22,741 千円	▲17.8 %	
(うち借入金)		(9,011 千円)	▲14.8 %	(17,945 千円)	99.1 %	(17,036 千円)	▲5.1 %	(9,019 千円)	▲47.1 %	(8,012 千円)	▲11.2 %	
固定負債		790 千円	186.2 %	263 千円	▲66.7 %	634 千円	141.1 %	211 千円	▲66.7 %	590 千円	179.6 %	
(うち借入金)	F	(0 千円)		(0 千円)		(0 千円)		(0 千円)		(0 千円)		
純資産の部	G	10,245 千円	17.1 %	10,855 千円	6.0 %	13,014 千円	19.9 %	12,371 千円	▲4.9 %	18,820 千円	52.1 %	
資本金		20,000 千円	0.0 %	20,000 千円	0.0 %	20,000 千円	0.0 %	20,000 千円	0.0 %	20,000 千円	0.0 %	
利益剰余金等		▲ 9,755 千円	13.3 %	▲ 9,145 千円	6.3 %	▲ 6,986 千円	23.6 %	▲ 7,629 千円	▲9.2 %	▲ 1,180 千円	84.5 %	
健全性指標	債務超過の有無 (G)	目標：無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	
	自己資本比率 (G/A)	目標：50%以上	28.9%	10.9%	25.8%	▲10.6 %	30.1%	16.6 %	30.7%	2.0 %	44.6%	45.3 %
	流動比率 (B/D)	目標：150%以上	50.1%	18.6 %	57.9%	15.5 %	64.9%	12.1 %	61.7%	▲4.9 %	83.5%	35.3 %
	固定比率 (C/G)	目標：100%以下	226.6%	▲14.5 %	222.3%	▲1.9 %	184.5%	▲17.0 %	187.3%	1.5 %	123.1%	▲34.3 %
	借入金依存度 ((E+F)/A)	目標：前年比較減	25.4%	▲19.4 %	42.7%	68.1 %	39.4%	▲7.7 %	22.4%	▲43.2 %	19.0%	▲15.2 %

(2) 損益計算書		(令和2年4月1日から令和3年3月31日)		(令和3年4月1日から令和4年3月31日)		(令和4年4月1日から令和5年3月31日)		(令和5年4月1日から令和6年3月31日)		(令和6年4月1日から令和7年3月31日)	
項目	A	令和2年度	第 32 期	令和3年度	第 33 期	令和4年度	第 34 期	令和5年度	第 35 期	令和6年度	第 36 期
		決算額	前年比増減	決算額	前年比増減	決算額	前年比増減	決算額	前年比増減	決算額	前年比増減
営業収益		150,033 千円	▲6.9 %	154,806 千円	3.2 %	181,511 千円	17.3 %	188,873 千円	4.1 %	200,732 千円	6.3 %
営業費用		148,469 千円	▲9.5 %	154,124 千円	3.8 %	179,280 千円	16.3 %	189,443 千円	5.7 %	194,212 千円	2.5 %
(うち売上原価) (対営業収益比率)		(20,741 千円)	(13.8%)	(22,160 千円)	(14.3%)	(31,301 千円)	(17.2%)	(32,598 千円)	(17.3%)	(36,834 千円)	(18.3%)
(うち人件費) (対営業収益比率)		(62,973 千円)	(42.0%)	(61,349 千円)	(39.6%)	(61,310 千円)	(33.8%)	(65,564 千円)	(34.7%)	(66,033 千円)	(32.9%)
〈営業損益〉		1,564 千円	155.3 %	682 千円	▲56.4 %	2,231 千円	227.1 %	▲ 570 千円	▲125.5 %	6,520 千円	1,243.9 %
営業外損益		0 千円		0 千円		0 千円		0 千円		0 千円	
〈経常損益〉		1,564 千円	155.3 %	682 千円	▲56.4 %	2,231 千円	227.1 %	▲ 570 千円	▲125.5 %	6,520 千円	1,243.9 %
〈当期純損益〉		1,493 千円	151.5 %	610 千円	▲59.1 %	2,159 千円	253.9 %	▲ 642 千円	▲129.7 %	6,448 千円	1,104.4 %

〈評価分析〉 恒常的な業績不良による利益剰余金のマイナスが続いており財務状況は弱く、自己資本比率は若干低くなっている。令和6年度の営業損益は収益は前期比で大きく増収し、黒字計上となった。

4. 市の財政的関与

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
出資金					
負担金、補助及び交付金					
指定管理料					
その他					
備考	指定管理料内訳 桜香の湯・そばの里荘川・荘川の里 H30 24,938千円、H31 23,693千円、R2 52,991千円、R3 51,841千円、R4 39,591千円、R5 40,838千円、R6 54,292千円				

5. 課題等

項目		市所管課	団体
S W O T 分 析	内部分析	強み	<ul style="list-style-type: none"> ・特色ある施設を有しており、老若男女幅広い客層に利用されている。 ・団体に対し地域内の住民や事業者が役員就任で関わっており、地域との繋がりが大きい。
		弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・光熱費等の経費が年々大きくなっている。
	外部分析	機会	<ul style="list-style-type: none"> ・人流が戻りつつある。
		脅威	<ul style="list-style-type: none"> ・東海北陸自動車道荘川ICでの降車が少ないため、利用者が減少傾向にある。
事業面 (必要性、公益性、採算性、収益性など)		<ul style="list-style-type: none"> ・桜香の湯について、固定費の負担が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・桜香の湯について、固定費の負担が大きい。
財政面 (財務状況の現状や将来の見通しなど)		<ul style="list-style-type: none"> ・利用者増加に向けた情報発信に努めるとともに、経費節減に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者増加に向けた情報発信に努めるとともに、経費節減に努めている。
施設・設備 (所有する建物や設備等の状況など)		<ul style="list-style-type: none"> ・施設全体の老朽化が進んでおり、建物や設備等の計画的な改修が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設全体の老朽化が進んでおり、建物や設備等の計画的な改修が必要である。空調冷温水機の故障により、利用者に多大な迷惑をかけているが、令和8年に更新工事を行う予定。
組織・人員体制 (役員や従業員等の状況など)		<ul style="list-style-type: none"> ・役員や従業員の高齢化 ・担い手不足のため人材確保が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・役員や従業員の高齢化。 ・担い手不足のため人材確保が難しい。
公共施設等総合管理計画 (方針と今後の考え方)		—	<ul style="list-style-type: none"> ・桜香の湯 市が進める譲渡に向けた調整に協力する。 ・そばの里荘川(レストラン) 市が進める譲渡に向けた調整に協力する。 ・荘川の里 地域と連携しながら、更なる誘客に努める。
自由記載 (団体や事業の今後のあり方や果たすべき役割について)		<ul style="list-style-type: none"> ・財政面の回復の兆しが見えないなかで、桜香の湯とそばの里荘川(心打亭)は譲渡を見込んでいるため、譲渡しても運営できる体制や見直しが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・財政面の回復の兆しが見えないなかで、桜香の湯とそばの里荘川(心打亭)は譲渡を見込んでいるため、譲渡しても運営できる体制や見直しが必要。